

資料4

長久手市文化の家自主事業報告書

(令和5年4月～6月実施分)

長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	音楽講座シリーズ ミニマルミュージック編		
日時	令和5年4月9日（日）	14時00分 開演	
場所	長久手市文化の家 光のホール		
事業の種類	普及・啓発事業	配信	なし
出演者	小室敬幸		
公演内容	ミニマルミュージックに関するレクチャー		
入場者数	49	席設定	80
		入場率	59.8%
チケット料金	(前売) 500円 (当日) 500円		
支出	委託費	60,000円	
	チラシ印刷費	4,159円	
	音楽著作権	(未確定)	
	計	64,159円	
収入	入場料	25,000円	
	計	25,000円	
回収率	39.0%		
アンケート結果	・ 未知の世界だった「ミニマルミュージック」への扉を開いていただいた。（市外、60代女性） ・ 小室さんの講演はオンラインで聞くことが多かったが、今回非常に安い値段でありがたかった。 (市外、30代男性) ・ 有名アーティストが来る際には今後も、音楽講座を継続して欲しい。（市内、50代女性）		
担当者コメント	4月26日に開催予定の「コリン・カーリー・グループ オール・ライヒ・プログラム」の関連企画として開催した。ライヒといえばミニマルミュージックだが、一般的になじみのない人もいると思われたため、理解を深めてより演奏会が楽しめるような内容とした。来場者からも好評で、講座の終了後に演奏会のチケットを購入している人もおり、当初の想定通り券売につなげることができた。		



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	名演への招待シリーズ21 コリン・カリー・グループ オール・ライヒ・プログラム		
日時	令和5年4月26日（水）	19時00分 開演	
場所	長久手市文化の家 森のホール		
事業の種類	鑑賞・体験事業	配信	なし
出演者	コリン・カリー・グループ コリン・カリー、サム・ウォルトン、オーウェン・ガネル、ジョージ・バートン、シワン・リズ、ジェームシ・ヤング		
公演内容	木片のための音楽、ピアノフェイズ、マレットカルテット、ドラミングパート1、セクステット		
入場者数	432	席設定 579	入場率 74.1%
チケット料金	(前売) フレンズ会員4,500円、一般5,000円、学生3,000円 (当日) 一般5,000円、学生3,500円		
支出		委託費	6,100,000円
		ピアノ調律代	154,550円
		楽器運搬費	275,000円
		キーボードレンタル代	242,220円
		印刷製本費	88,053円
		広告折込代	98,648円
		音楽著作権料	70,950円
		計	7,029,421円
収入		入場料	2,160,000円
		計	2,160,000円
回収率			30.7%
アンケート結果	<p>初めて聴く演奏形態であった、異次元の異空間体験をした。だんだん盛り上がってきて、ラストは会場内大拍手。25周年企画に相応しい催し物だった。(市内、男性70代)</p> <p>現代音楽を生で聴くことの面白さ、感動を届けてくれ、本当にありがとうございました! マレット・カルテットとドラミング パートIは興奮が止まらなかった! パンフレットの文章から、いろいろな困難を経て実現へと至ったことがわかった。(市外、女性20代)</p> <p>演奏も、ホールもとても素晴らしかった。今回初めて来たが、正直来るまでは「長久手...?」という感じだったが、「また来たい~!」になった。ライヒ本人を呼べる時が来たら、そのときは真っ先にこちらの公演のチケットから取りに行きます。(県外、女性40代)</p>		
担当者コメント	<p>今回の来日公演は、東京オペラシティと文化の家のみで、曲目もまったく異なるプログラムとした。文化の家開館25周年記念公演の一環として、スティーヴ・ライヒの代表曲を集めたプログラムで構成した。ライヒの作品は久石譲らにも多大な影響を与えており、ジブリパークのある長久手にもゆかりのある内容とした。その圧倒的なパフォーマンスに会場は熱狂し、SNSなどでも非常に好意的な反響が得られた。すばらしい内容であっただけに、完売とならなかったことは残念であり、生でしか得られない感動をどうやって見たことのない人に伝えられるかが大きな課題となった。</p>		

長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名 長久手市インクルーシブアート展

日時 令和5年5月17日（水）～28日（日）

場所 長久手市文化の家 展示室

事業の種類 普及・啓発事業

出演者 市内福祉事業所所属の市民等の作品

公演内容 長久手市内の8つの福祉事業所に所属している作家が制作した作品の展示（絵画、漫画、人形、立体物）。
関連ワークショップ「ありがとうの町をつくろう」において参加者が制作した作品の展示。

入場者数 474

チケット料金 無料

支 出	展示物管理案内業務委託	103,125円
	印刷製本費	27,074円
	作品提供協力費	154,800円
	計	284,999円
収 入	入場料	0円
	計	0円

回収率

アンケート結果 作家さんそれぞれの感性の違いがよく出ていて良かった。個性のある作品で見ている楽しかった。
(市外、50代男性)
『ありがとうの町をつくろう』は、同じ用紙でもそれぞれの発想で思い思いに描かれていて、見ていても楽しかった。子どもの発想力に感心させられた。(市内、30代)
このようなイベントがあるとは知らず、誘ってもらえてよかった。楽しいイベントなので、もう少し広報に力を入れた方がよいと思う。(市内、30代女性)

担当者コメント 令和4年度に続き、2回目の実施となる。今年度は、市内福祉事業所に通所している方から作品を募った。また、今回は作家が普段どのように過ごし、どのような思いで作品を制作しているかに重点を置き、作家と事業所へのインタビュー動画やパネル交えながら展示を行った。事前に行われた関連WS「ありがとうの町をつくろう」で制作された作品も壁一面に展示され、展覧会に来場された方にも思いの「町」を描いて頂き、随時展示に追加した。
作家や事業所からは、「このような発表の機会はなかなかとれないため、貴重な経験になった」との声を多くいただいた。また、来場者は作家の様々な個性や感性を感じ取りながら楽しんでいただいていたようであった。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	午後の笑時間 東西聴きくらべ落語会 柳家勸之助ひとり会		
日時	令和5年5月18日（木）	13時30分 開演	
場所	長久手市文化の家 光のホール		
事業の種類	普及・啓発事業（提携）		
出演者	柳家勸之助（やなぎや かのすけ）		
公演内容	一、真田小僧 一、竹の水仙		
入場者数	82	席設定 80	入場率 100.0%
チケット料金	（前売）1,200円 （当日）1,500円		
支 出	提携事業のため支出なし		
		計	0円
収 入	提携事業のため収入なし		
		計	0円
回 収 率			
アンケート結果	柳家勸之助さんの声がとても良く通り聞きやすく楽しめた。又、呼んでほしい。（市内、70代女性） チケットを当日にとりおきしておいてほしい。注文してからすぐにとりにくるのは、困る。（市外、60代） こじんまりしたホールで見やすいききやすい。楽しいお話である。（市外、50代女性）		
担当者コメント	初めて光のホールの小空間で落語会を行った。噺家は、江戸落語真打ちの柳家勸之助。柳家家禄一門で人気若手落語家だけあり、80席の小空間は早々と完売した。軽妙な語り口はもちろんであったが、落語初心者にもわかりやすい親子の掛け合いが面白い「真田小僧」と名工左甚五郎と宿屋の駆け引きが絶妙な「竹の水仙」。長久手の客層を次回公演につなげる演目選びであった。それも有りアンケートでは再公演を望む声が高かった落語会であった。		

長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	灯ル道		
日時	令和5年6月3日（土） 令和5年6月4日（日）	①14時00分開演、②18時00分開演 ③14時00分開演	
場所	長久手市文化の家 風のホール		
事業の種類	アートのまち創造事業	配信	なし
出演者	林友里菜（舞踊系創造スタッフ） ダンサー 松林由華、山崎文香、小林加奈		
公演内容	原作を基にしたコンテンポラリーダンス公演 原作：無名の罪人（作 小西祐矢）		
入場者数	182	席設定	150 入場率 40.4%
チケット料金	(前売) フレンズ会員1,000円 (当日) 一般1,500円、学生500円		
支出		委託費	180,000円
		印刷製本費	48,984円
		消耗品	10,000円
		音楽著作権料	未確定
		計	238,984円
収入		入場料	214,000円
		計	214,000円
回収率	89.5%		
アンケート結果	4人とは思えない構成の多さと迫力を感じました。（20代女性） 人生の光と闇をみごとに演じていて感動しました。（60代男性） 初めてのスタイルで難しい踊りでしたが、勉強になりました。（80代女性）		
担当者コメント	暗闇とランプを使用することで、テーマに「私は命を謳歌する。」書かれていたように、その瞬間を懸命に生きているような表現を感じることができた。 愛知県内でも数少ないダンス公演ということもあり、初めてダンス公演を観覧した方が多くいたが、こういった内容のダンス公演ならまた観てみたいと多くの方にご好評いただいた。 コンテンポラリーダンスというジャンルでの集客は難しく、近隣学校のダンス部に周知を行ったが、今後は周知する範囲を広げていくことを検討する。		

長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名 中学校であーと（南中学校）

日時 令和5年6月21日（水）

場所 長久手市立南中学校

事業の種類 普及・啓発事業 配信 なし

出演者 猪子奈津子(ヴァイオリン)、角美吹(ピアノ)

公演内容
 ヴァイオリンとピアノによるクラシック音楽のアウトリーチ
 Violin Sonata No. 7 in D Major, Op. 1, No. 13, HWV 371, 4mov.
 Schumann: 3 Romances Op. 94-2
 Prokofiev: Sonata for Violin and Piano No. 2 D-Dur Op. 94 bis, 1mov.
 Beethoven: Sonate Nr. 9 A-dur Op. 47 "Kreutzer", 1mov.

入場者数 278 中学1年生8クラス

支出 委託費 50,000円

計 50,000円

収入 文化庁助成金 金額未定

計 0円

回収率 0.0%

アンケート結果
 演奏して下さったお二人の音楽にかける想いがとても強く、素敵だったので、自分も全力になれるものを見つけたいと思った。（生徒）
 音楽をきいて、いろいろな情景を思い浮かべることができた。（生徒）
 作曲者の想い、その時代の状況が音楽に残っていてとても感動した。（生徒）
 強弱が一瞬で変化するところが素晴らしく、2つの楽器があわさり、より深みが増していたところがすごい良かったと感じた。（生徒）
 言葉で表せないところを音楽で表現することが良い伝え方だと思った。自分の苦手なところを得意なことで表現できるよう頑張りたい。（生徒）
 生演奏を初めて聴いた生徒もあり、テレビなどとは違う音色に驚いていた。（教員）

担当者
コメント

令和4年度に小学校であーとに出演したヴァイオリンの猪子奈津子と、ピアノの角美吹が中学校であーとに登場。ランスルーの後、出演者2人はクラシック音楽の素晴らしさとそれに対する自身らの想いをいかにして中学生に伝えるかということに苦心し、直前まで改良を重ねた。当日は、迫力ある演奏と、自身がどのようなきっかけで、どのような想いや姿勢でクラシック音楽を演奏しているか、といった話を行い、それらを通じて中学生は自分が得意なこと・苦手なことをどう向き合っていくかということや、自身の想いをどのように表現するかといったことに新しい気づきを得たようであった。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	男女共同参画啓発事業 「愛と青春の名曲～すべての曲は愛から生まれた…かもしれない～」		
日時	令和5年6月23日（金）	14時00分 開演	
場所	長久手市文化の家 風のホール		
事業の種類	普及・啓発事業	配信	なし
出演者	小室敬幸（講師） 内田一晟、小田智之（音楽系創造スタッフ） Hina（ボーカル）		
公演内容	レクチャー&コンサート（レクチャーの合間に曲を挟む） 前半：オーバーザレインボー、もののけ姫、ウエスト・サイド・ストーリーメドレー 後半：軒下のモンスターOne Last Kiss、ファミリーソング、ヤングマン		
入場者数	126	席設定	292 入場率 42.3%
チケット料金	無料		
支出	講師料	委託費	60,000円
		印刷製本費	18,846円
		音楽著作権料	未確定
		計	78,846円
収入		入場料	0円
		計	0円
回収率			0.0%

アンケート結果 お話も演奏も、そして企画自体もよく考えられた奥深いものだと感心した。（市外、60代女性）
 よく知るミュージシャンが歌でこんなに表現していることを知った。（市外、60代女性）
 最後のY.M.C.Aは皆が一体となり盛り上がり、とても楽しく過ごせた。（市内、80代女性）

担当者コメント 本市が6月からスタートした「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」にちなみ、「セクシャルマイノリティ」と呼ばれる人々の名曲を中心に取り上げた。フライヤーではあえて「セクシャルマイノリティ」について触れず、そうしたことを意識せずに足を運んでいただくことを狙っていた。そのため、アンケートでは戸惑う人もいた一方で、多様性を考えるきっかけになったといった回答も多くあり、関心がない人にも伝えることができた。集客は、たつせがある課とより連携して行えれば強化できた。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名 大脇ぼんだ・藤島えり子 二人芝居 「まちだ商店街悲恋物語」

日時 令和5年6月23日（金） ①20時00分開演
 令和5年6月24日（土） ②11時00分開演、③16時00分開演
 令和5年6月25日（日） ④13時00分開演

場所 長久手市文化の家 光のホール

事業の種類 鑑賞・体験事業（提携） 配信 なし

出演者 大脇ぼんだ
 藤島えり子

公演内容 二人芝居「まちだ商店街悲恋物語」
 性格が正反対の2人が商店街を舞台に繰り広げるハートフルコメディ。

入場者数 108 席設定 68 入場率 38.6%

チケット料金 (前売) フレンズ 1,500円、一般 2,000円
 (当日) フレンズ・一般 2,000円

支出 提携事業のため支出なし
 計 0円

収入 提携事業のため収入なし
 計 0円

回収率

アンケート結果 後味とっても良かった。終盤にひかれた。（県外、50代男性）
 とても小さい舞台上でしっかりとシーンが見えるとても良いお話だった。（市外、30代男性）
 映画を見た事はあったが、光のホールで演劇が見れるとは思わなかった。（市内、50代女性）

担当者
 コメント

1時間ずっと2人で話し続ける芝居であったが、テンポがよく、クスッと笑える場面があふれていたため、時間があっという間に過ぎていた。客層は子どもからお年寄りまで幅広く、どの客層にも見やすい作品であった。集客が思うように伸びなかった。内容的に学生にも見やすいものであったため、高校・大学を含む学校にも周知に力を入れたらよかったと思う。

